

市民発!

広報サポーターだより

「私たちは菜の花咲かせ人」びと

再び鈴木理絵です。渥美半島は、菜の花まつりの真っ盛り。市内では、大きな菜の花畑をいろいろなところで見ることが出来ますね。そこで、まつり用の菜の花を栽培している河合啓治さん（和地町）にお話を伺ってきました。



▲菜の花イルミネーション

菜の花の特徴は、寒さにとっても強いことです。渥美半島は冬でも比較的温暖な地域で、氷点下まで冷え込むことはほとんどありません。伊良湖フラワーパーク（H17閉園）に勤務していた河合さんがこれに注目し、平成8年に「夏の海水浴に引けを取らないくらい、渥美半島を菜の花で有名にしたい」と考えたことが、菜の花まつりのきっかけとなったそうです。

平成9年2月から始まった『渥美半島菜の花まつり』。これらの菜の花畑は、もともとは荒れた遊休地でした。雑草などが生い茂っていたので、刈り取りから始め、耕し、菜の花畑にしたのだそうです。今では伊良湖地区の菜の花畑の面積は約13万㎡になり、東京ドームに換算すると2個分にもなります。この広大な菜の花畑を、地元の人々の力を借りながら、ほとんどの作業を渡辺元次さん（和地町）と2人でやっているというから驚きです。

菜の花の栽培は、前年の8月から始まります。畑をトラクターで耕し、肥料をまき、9月中旬から11月末にかけて約600リットルもの種をまきます。早咲きと遅咲きの種を混ぜて、1月

上旬から3月末まで開催される菜の花まつりの期間中、ずっと楽しめるように工夫しているのだそうです。そして1月からは、観光客にプレゼントする菜の花を切ったり、イベントを手伝ったりと大忙しです。

河合さんは、「海水浴シーズンが終われば、伊良湖の観光客は激減していたけど、今では夏になりました。これからも菜の花で渥美半島をもっと盛り上げていきたい」と意気込みを語ってくださいました。



●河合さん(左)と渡辺さん(右)は2人合わせて152歳



●菜の花ガーデンにある見晴し台への階段も手作りです



●菜の花迷路を散策する親子たち

渥美半島菜の花まつりは、3月31日まで開催されます。物産店やクイズラリーなどイベントが盛りだくさんですので、ぜひ一度足を運んでみてくださいね。



●お問い合わせは渥美半島観光ビューロー

023-951-0220

http://www.taharakankou.gr.jp/



●広報サポーター「めだか」ツイッターなう♪

●ID「Koho Tahara」 ●ツイッターアドレス <http://twitter.com/#!/KohoTahara>